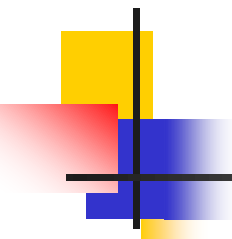


療護センター等の短期入院患者に対する アンケート調査結果報告書（概要）



I. 短期入院患者に対するアンケート調査の概要

1. 目的

本調査は、療護センターの将来のあるべき姿を検討するにあたり、療護センターの役割、機能、体制等に対する利用者（入院患者及びご家族）のニーズや意識について幅広く調査することを目的として実施したものである。

2. 調査概要

- 調査対象： 療護センターへ短期入院したことのある介護料受給者、家族
- 調査時期： 2022年9月末（郵送日）～2022年11月11日（締切日）
- 調査方法： 調査票による記入方式（郵送配布、郵送回収）
- 配布数： 75名 回収数： 46名 回答率 61.3%

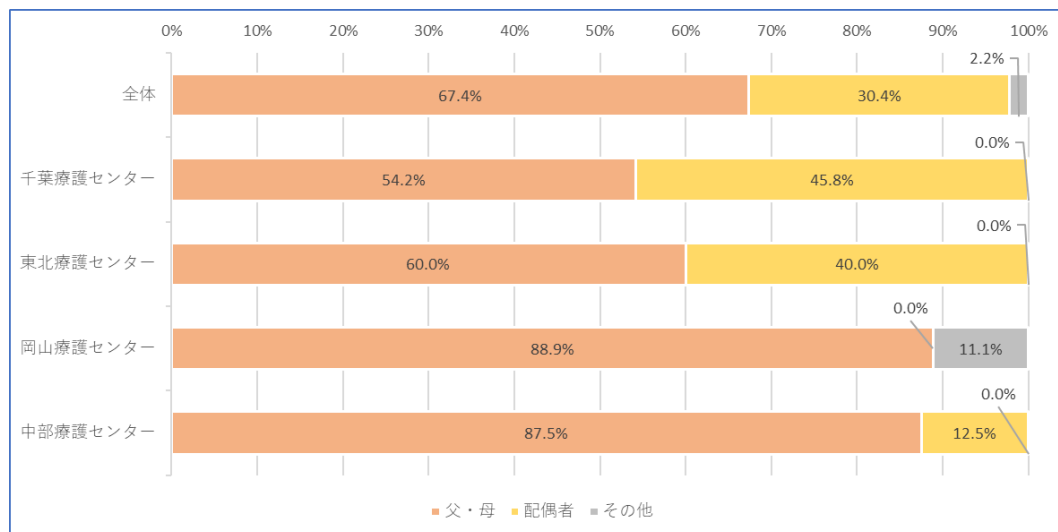
Ⅱ. 集計結果

1. 回答者の属性(Q1-1:回答者の続柄)

【設問】Q1－1：短期入院利用者（NASVA療護センターを短期入院で利用する方）とあなたとの続柄をお聞かせください。

Q1-1	父・母		配偶者		その他		合計	
全体	31	67.4%	14	30.4%	1	2.2%	46	100.0%
千葉療護センター	13	54.2%	11	45.8%			24	100.0%
東北療護センター	3	60.0%	2	40.0%			5	100.0%
岡山療護センター	8	88.9%			1	11.1%	9	100.0%
中部療護センター	7	87.5%	1	12.5%			8	100.0%

その他の回答：成年後見人（岡山療護センター）



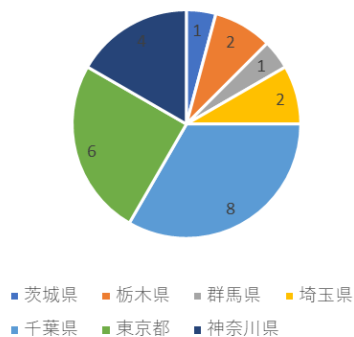
回答者の続柄は、全体では
父・母が**67.4%**、配偶者が**30.4%**を
占めている。

Ⅱ. 集計結果

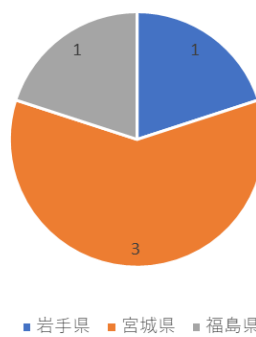
1. 回答者の属性(Q1-2:回答者の居住地)

【設問】1－2:短期入院利用者の方の現在のお住まいはどちらですか。

千葉療護センター



東北療護センター



各療護センターとも、所在地に近い都府県の居住者の利用が多くなっている。

回答者の居住地は、
 千葉療護センターは、千葉県、東京都を中心に
 関東地方の1都6県、
 東北療護センターは、宮城県を中心に東北地
 方の3県、
 岡山療護センターは、岡山県、大阪府を中心に
 中国・近畿地方の1府5県、
 中部療護センターは、愛知県、滋賀県を中心に
 北陸東海・近畿地方の1府4県となっている。

岡山療護センター



中部療護センター



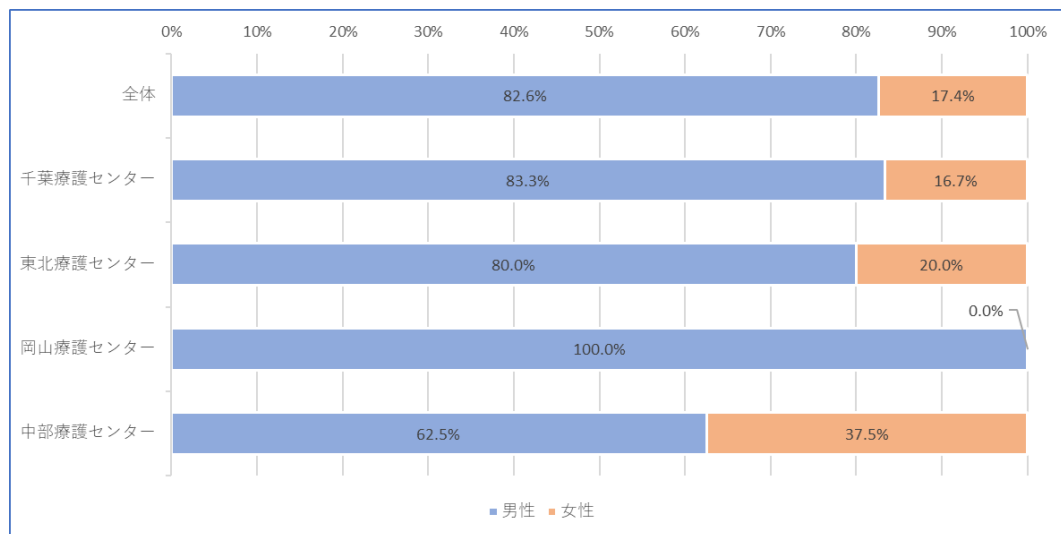
Ⅱ. 集計結果

1. 回答者の属性(Q1-3:入院患者の性別)

【設問】Q1－3:短期入院利用者の方の性別をお聞かせください。

Q1-3	男性		女性		合計	
全体	38	82.6%	8	17.4%	46	100.0%
千葉療護センター	20	83.3%	4	16.7%	24	100.0%
東北療護センター	4	80.0%	1	20.0%	5	100.0%
岡山療護センター	9	100.0%			9	100.0%
中部療護センター	5	62.5%	3	37.5%	8	100.0%

入院患者の性別は、全体では
男性が8割強、女性が2割弱
となっている。

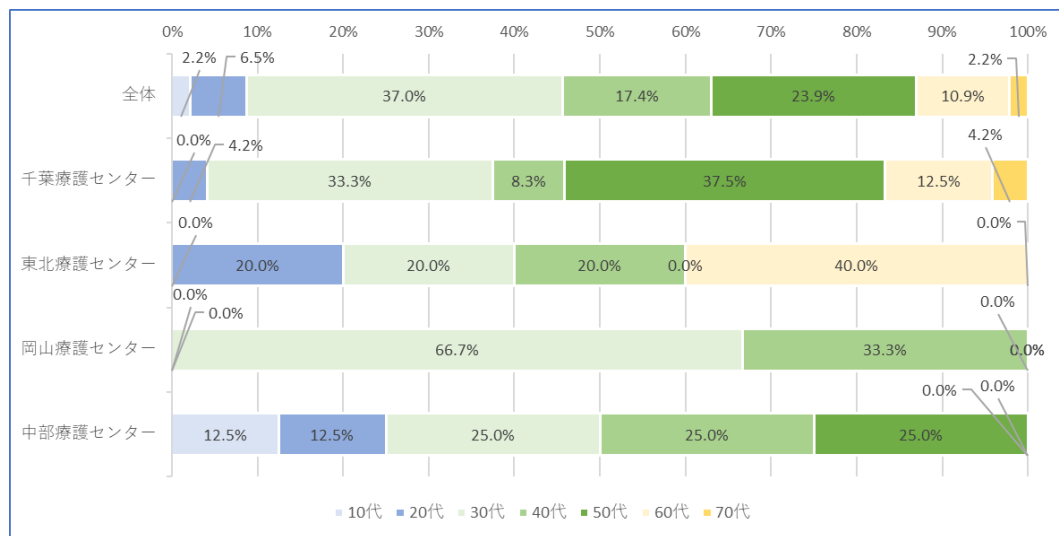


Ⅱ. 集計結果

1. 回答者の属性(Q1-4:入院患者の年齢区分)

【設問】Q1-4:短期入院利用者の方の現在の年齢をお聞かせください。

Q1-4	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		合計	
全体	1	2.2%	3	6.5%	17	37.0%	8	17.4%	11	23.9%	5	10.9%	1	2.2%	46	100.0%
千葉療護センター			1	4.2%	8	33.3%	2	8.3%	9	37.5%	3	12.5%	1	4.2%	24	100.0%
東北療護センター			1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%			2	40.0%			5	100.0%
岡山療護センター					6	66.7%	3	33.3%							9	100.0%
中部療護センター	1	12.5%	1	12.5%	2	25.0%	2	25.0%	2	25.0%					8	100.0%



入院患者の年齢区分をみると、全体では30代、40代、50代が8割を占めている。

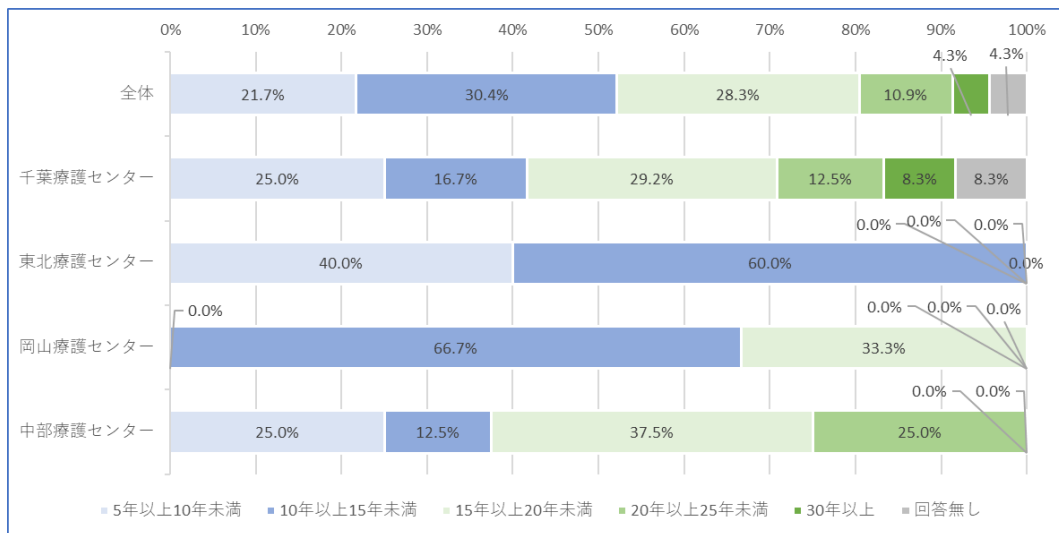
千葉療護センターは30代、50代の利用者が
東北療護センターは60代の利用者が多い。
岡山療護センターは30代、40代のみ、
中部療護センターは30代、40代、50代その他、唯一
10代の利用者がいる。
全体では女性の利用者は8名(17.4%)で、年代別
には、20代、30代が多い。
(20代は利用者全員が女性)。

Ⅱ. 集計結果

1. 回答者の属性(Q1-5:受傷からの経過年数)

【設問】Q1－5:障害を受傷することとなった交通事故からの経過年数について、お聞かせください。

Q1－5	5年以上10年未満		10年以上15年未満		15年以上20年未満		20年以上25年未満		30年以上		回答無し		合計	
全体	10	21.7%	14	30.4%	13	28.3%	5	10.9%	2	4.3%	2	4.3%	46	100.0%
千葉療護センター	6	25.0%	4	16.7%	7	29.2%	3	12.5%	2	8.3%	2	8.3%	24	100.0%
東北療護センター	2	40.0%	3	60.0%									5	100.0%
岡山療護センター			6	66.7%	3	33.3%							9	100.0%
中部療護センター	2	25.0%	1	12.5%	3	37.5%	2	25.0%					8	100.0%



受傷からの経過年数を見ると、
全体では20年未満が8割を占めており、
10年～15年、15年～20年は各々約3割
となっている。

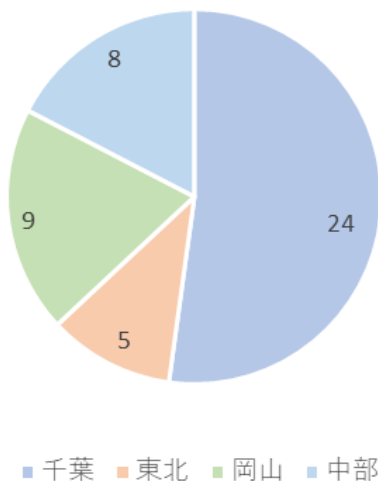
Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-1:利用した療護センター)

【設問】Q2-1:短期入院でどちらのNASVA療護センターを利用したことがありますか。

Q2-1	千葉		東北		岡山		中部		合計	
全体	24	52.2%	5	10.9%	9	19.6%	8	17.4%	46	100.0%

短期入院先の療護センター



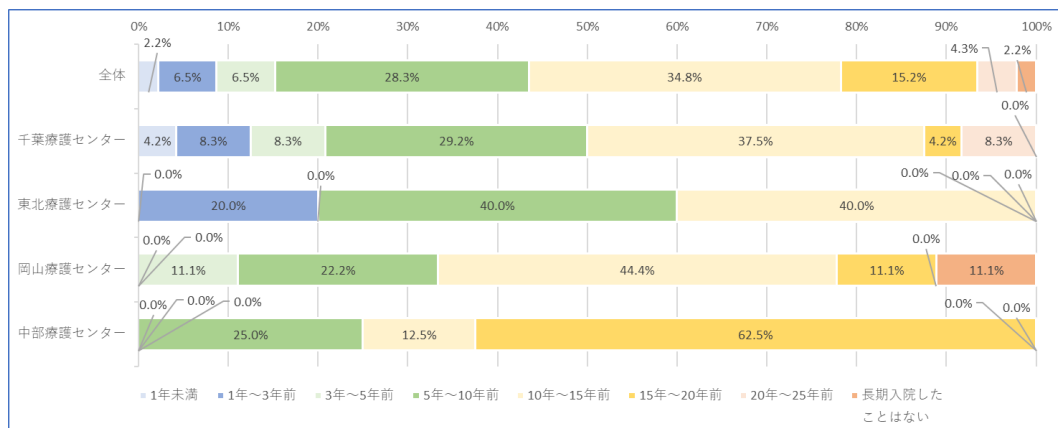
短期入院先の療護センターは、
千葉療護センターが5割、
岡山療護センター、中部療護センターが2割、
東北療護センターが1割
となっている。

Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-2:長期入院していた時期)

【設問】2-2:長期入院でNASVA療護センターにいつ頃に入所されていましたか。

Q2－2	1年未満		1年～3年前		3年～5年前		5年～10年前		10年～15年前		15年～20年前		20年～25年前		長期入院した ことはない		合計	
全体	1	2.2%	3	6.5%	3	6.5%	13	28.3%	16	34.8%	7	15.2%	2	4.3%	1	2.2%	46	100.0%
千葉療護センター	1	4.2%	2	8.3%	2	8.3%	7	29.2%	9	37.5%	1	4.2%	2	8.3%			24	100.0%
東北療護センター			1	20.0%			2	40.0%	2	40.0%							5	100.0%
岡山療護センター					1	11.1%	2	22.2%	4	44.4%	1	11.1%			1	11.1%	9	100.0%
中部療護センター							2	25.0%	1	12.5%	5	62.5%					8	100.0%



療護センターに長期入院していた時期は、
全体では10年～15年前が最も多く、
次いで5年～10年前、15年～20年前
となっている。

千葉療護センターでは、10年～15年前、5年～10年前を中心に、古い患者から新しい患者まで受け入れている。

東北療護センターでは、10年～15年前の患者以降の患者のみとなっている。

岡山療護センターでは、15年～20年前の患者から、3年～5年前の患者までを受け入れている。

中部療護センターでは、15年～20年前の患者から、5年～10年前の患者までを受け入れている。

尚、岡山療護センターへの短期入院利用者が1名のみ、長期入院したことはないと回答している。

Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-3:良かった点)

【設問】Q2-3: 治療・看護を受けて、良かったところは何ですか。また、悪かったところや改善すべきところなどがあれば、お聞かせください。(回答自由記載)

Q2-3 良かった点	回答数	該当する内容（複数回答）								合計
		看護	家族サポート	診療	リハビリ	設備	その他職員	MSW	その他	
全体	40	17	16	8	6	5	2	1	8	63
千葉療護センター	21	11	10	5	1	1	1	1	4	34
東北療護センター	5	1	1	2	1				1	6
岡山療護センター	7	1	2		2	1	1		3	10
中部療護センター	7	4	3	1	2	3				13

※ 左表は、Q2-3<良かった点>の回答(自由記載)40件の内容を、該当する項目別に集計したもの。

項目別には、看護と家族に対するサポートに関するご意見が多く寄せられた。主なご意見(抜粋)は以下の通り。

<看護等>

○看護師が担当制で色々な相談もでき、3年間という長い期間を通して信頼して任せられました。在宅介護に向けての研修などもあり、有難かったです。

○色々なことが夫にいい刺激で、在宅介護になるとときには看護のやり方を全て指導してくれたり、車いすに乗りお散歩させてくれたり、センターよりいい施設はないと思います。

○薬の調整をして頂いたこと。残された機能を活かすように親身に看護して頂いたこと(座位や車いす移乗や声掛け等)。身体も常に清潔にして頂いたこと。在宅介護の指導など。

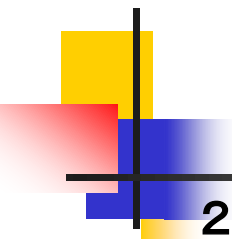
○安心して看護して頂きました。

○24時間介護してもらってよかったです。

○自宅に帰る手助けをしてもらった。オムツの変え方、吸引の仕方等、色々教えてもらいました。

○看護師等が患者に慣れている(交通事故の人ばかり)。入院中に、自宅でやることを丁寧に教えてもらった。

※ 短期入院での感想だけでなく、長期入院での感想も多く含まれていると考えられる。



Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-3:良かった点)

【設問】Q2-3: 治療・看護を受けて、良かったところは何ですか。また、悪かったところや改善すべきところなどがあれば、お聞かせください。(回答自由記載)

主なご意見(抜粋)は以下の通り。(続)

<家族サポート等>

- 日ごろの介護等の不安な点等を相談したりより良い方法を聞いた点。
- 入院中の他のご家族と仲良くなれたこと。退院後も続いています。とても心強い！！
- 他の家族の方(交通事故被害者)と話をする機会があって、同じ被害者同士しか分からない心情や色々な手続きのこと等、慰めになった。
- 自宅での介護の仕方など指導頂けた。

<診療等>

- それまで月1回は発熱があったが、療護センターへ移ってからは熱を出さなくなったこと。退院した後も同じようなケアに務めて、熱はめったに出ないです。まめに痰の吸引をして頂いたことが良かったと思います。

<リハビリ等>

- リハビリや治療を積極的に行って頂き、機能が回復した。
- リハビリを多くしてもらった。病床がオープンになっていて看護師さんの目が行き届いていた。

<設備等>

- オープンスペースなので目が行き届き、皆さんいつも明るく声かけなどをしてくれたところ。
- 壁のない開放型の病床はとても良かった。精神的にも孤独感が和らいだ。入浴の設備もとても良かった。看護師による患者の寝位のポジショニングがとてもよかった。
- ナースステーションから全体が見渡され、常に見守って頂ける場所。リハビリ等も充実していました。

※短期入院での感想だけでなく、長期入院での感想も多く含まれていると考えられる。

Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について (Q2-3:悪かった点・改善すべき点)

【設問】Q2-3:治療・看護を受けて、良かったところは何ですか。また、悪かったところや改善すべきところなどがあれば、お聞かせください。(回答自由記載)

Q2-3 悪かった点・ 改善すべき点	回答数	該当する内容(複数回答)								合計
		リハビリ	看護	診療	家族サ ポート	設備	その他 職員	MSW	その他	
全体	19	7	5	2	2				8	24
千葉療護センター	12	6	3	2	2				3	16
東北療護センター	2								2	2
岡山療護センター	1								1	1
中部療護センター	4	1	2						2	5

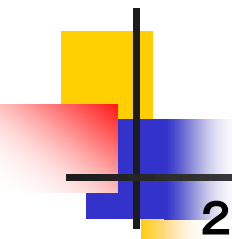
※ 左表は、Q2-3<悪かった点>の回答(自由記載)19件の内容を、該当する項目別に集計したもの。

項目別には、リハビリと看護に関するご意見が多く寄せられた。主なご意見(抜粋)は以下の通り。

<リハビリ等>

- 洗髪回数(レスパイト2週間で2回)を増やしてほしい。リハビリ回数やコミュニケーションの充実。
- リハビリの量が少ない(時間、内容)～10年以上前～個別に必要なと思われるリハビリ内容に柔軟に対応して頂きたい。
- リハビリの機会が少なく、もっとリハビリしてほしい。
- リハビリが少なかった。
- リハビリの機会が少なく、もっとリハビリしてほしい。
- 人手が足りないということで、短期入院中のリハビリ等が行われないのは残念。

※短期入院での感想だけでなく、長期入院での感想も多く含まれていると考えられる。



Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について (Q2-3:悪かった点・改善すべき点)

【設問】Q2-3:治療・看護を受けて、良かったところは何ですか。また、悪かったところや改善すべきところなどがあれば、お聞かせください。(回答自由記載)

主なご意見(抜粋)は以下の通り。(続)

<看護等>

- 本人の意見を聞かず看護師ペースで行うことはやめてほしい。言えば理解するので納得させてから事を済ませてください。
- 口腔ケアの技術が看護師によって様々で、舌苔が積もっていることが多かった。入院の2年間の間に誤嚥性肺炎を2度も起こした。

<診療等>

- 気切のバンドの調整や湿疹等の治療等が十分でなかった点。
- 入院してすぐの頃、むせがひどく体重が急激に落ちてしまった、ということがあり、状況に応じた栄養摂取を考えて頂きたい。

<家族サポート等>

- リハビリ、ケアの方法などについて、もっと家族に伝授してほしい。

<コロナ禍等>

- 短期入院が年3回。利用回数を増やしてほしい。
- コロナで利用できない。
- 面会の制限がだんだんと厳しくなったこと(コロナ前)。

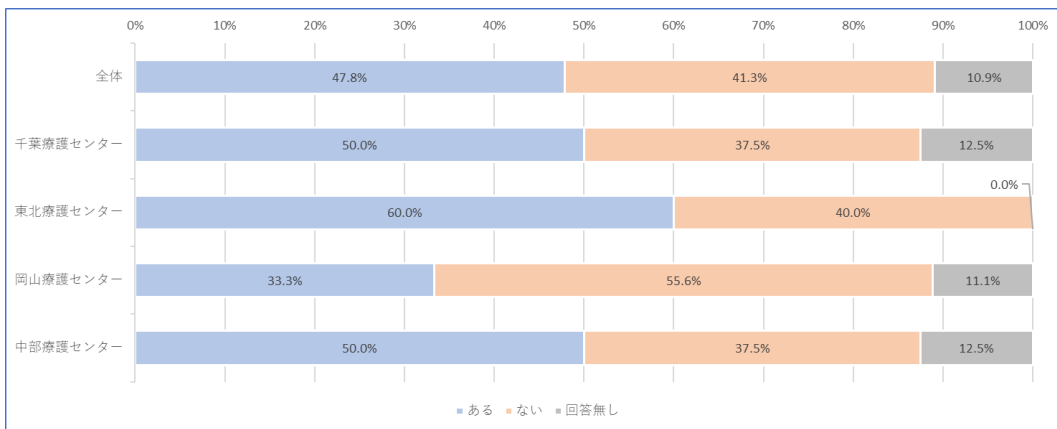
※短期入院での感想だけでなく、長期入院での感想も多く含まれていると考えられる。

Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について (Q2-4:取り組んでももらいたいこと)

【設問】Q2-4:過去に受けた、または現在受けている治療・看護とは別に、NASVA療護センターで新たにに取り組んでももらいたいことはありますか。

Q2-4	ある		ない		回答無し		合計	
全体	22	47.8%	19	41.3%	5	10.9%	46	100.0%
千葉療護センター	12	50.0%	9	37.5%	3	12.5%	24	100.0%
東北療護センター	3	60.0%	2	40.0%			5	100.0%
岡山療護センター	3	33.3%	5	55.6%	1	11.1%	9	100.0%
中部療護センター	4	50.0%	3	37.5%	1	12.5%	8	100.0%



新たに療護センターに取り組んでももらいたいことは、全体では『ある』と回答した人は5割弱、『ない』と回答した人は4割強であった。

Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-5:Q2-4の理由)

【設問】Q2-5:Q2-4で「ある」と回答された方にお聞きします。「ある」と回答された理由をお聞かせください。(回答自由記載)

Q2-5	回答数	該当する内容（複数回答）							
		リハビリ	診療	家族サポート	入院期間	看護	MSW	その他	合計
全体	19	10	2	1	1			6	20
千葉療護センター	9	4	1	1	1			3	10
東北療護センター	2	1	1						2
岡山療護センター	4	3						1	4
中部療護センター	4	2						2	4

※ 左表は、Q2-4で『ある』と回答した人の回答(自由記載)19件の内容を、該当する項目別に集計したもの。

項目別には、リハビリ等に関するご意見が多く寄せられた。主なご意見(抜粋)は以下の通り。

<リハビリ等>

○HAL等の機械を利用したリハビリ。

○短期入院でもリハビリをお願いします、必要です。

○理学療法士によるリハビリを毎日実施して頂きたい。(ある病院では、脳梗塞患者に1日3回リハビリをして、気切がとれたという話を聞きました)。

○短期入所でもリハビリをもっとやってほしい。

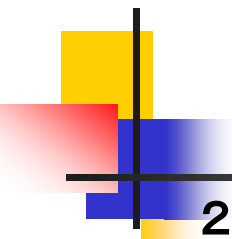
○レスパイト時のリハビリ等。

○リハビリを受けたい。

○リハビリが無いので、ぜひ取り入れて頂きたい。

○短期入所時にもリハビリをしてほしい。

○短期入院でもリハビリ、嚥下訓練等してほしい。以前はしてもらっていたが、今は全くない。



Ⅱ．集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-5:Q2-4の理由)

【設問】Q2－5:Q2－4で「ある」と回答された方にお聞きします。「ある」と回答された理由をお聞かせください。(回答自由記載)

主なご意見(抜粋)は以下の通り。(続き)

<診療等>

- 他病院との連携による積極的な治療を増やしてほしい。
- 再生医療を進めてほしい。

<家族サポート等>

- コロナが落ち着いたら在宅看護をしている者同士の交流とか、入院中の方へ実体験としてお伝えすることがあったら、そのような機会を作してほしい。

<入院期間等>

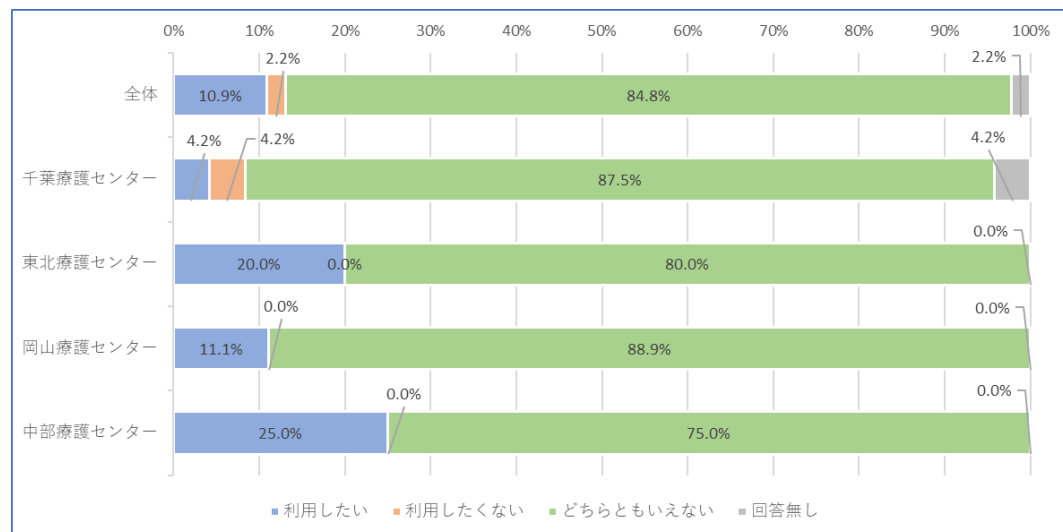
- 短期入院の利用を介護保険に切り替わっても利用できる取組。年間45日の見直し→増やしてほしい。

Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-6:男女別の病床の利用)

【設問】Q2－6:NASVA療護センターに男女別の病床があれば、利用したいですか。

Q2－6	利用したい		利用したくない		どちらともいえない		回答無し		合計	
全体	5	10.9%	1	2.2%	39	84.8%	1	2.2%	46	100.0%
千葉療護センター	1	4.2%	1	4.2%	21	87.5%	1	4.2%	24	100.0%
東北療護センター	1	20.0%			4	80.0%			5	100.0%
岡山療護センター	1	11.1%			8	88.9%			9	100.0%
中部療護センター	2	25.0%			6	75.0%			8	100.0%



男女別の病床があれば利用したいかは、
全体では、
『利用したい』は1割、
『利用したくない』は1名(千葉)のみ、
『どちらともいえない』は8割強
となっている。

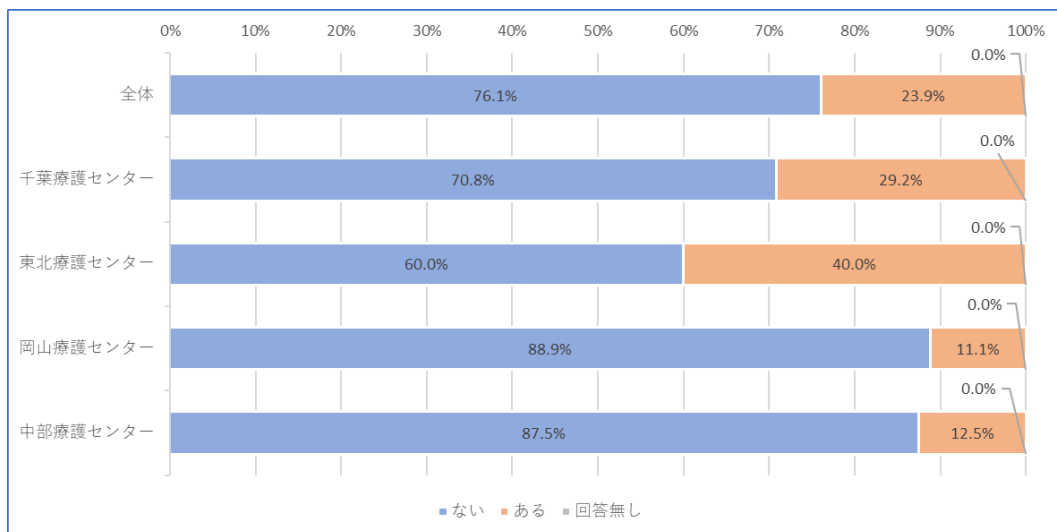
全体での回答を性別でみると、『利用したい』は男性3名、女性2名、『利用したくない』は男性1名、女性0名、『どちらともいえない』は男性33名、女性6名、『回答なし』は男性1名、女性0名であった。

Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-7:ワンフロア病棟システム)

【設問】Q2-7:NASVA療護センターのワンフロア病棟システムについて、気になっているところがあれば、お聞かせください。

Q2-7	ない		ある		合計	
全体	35	76.1%	11	23.9%	46	100.0%
千葉療護センター	17	70.8%	7	29.2%	24	100.0%
東北療護センター	3	60.0%	2	40.0%	5	100.0%
岡山療護センター	8	88.9%	1	11.1%	9	100.0%
中部療護センター	7	87.5%	1	12.5%	8	100.0%



ワンフロア病棟システムについて気になっているところがあるかは、全体では、『ない』が7割以上、『ある』が2割となっている。

Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-8:Q2-7の理由)

【設問】Q2-8:Q2-7で「ある」と回答された方にお聞きします。「ある」と回答された理由をお聞かせください。(回答自由記載)

Q2-8	回答数	該当する内容（複数回答）			
		プライバシー	感染対策	その他	合計
全体	11	2	1	8	11
千葉療護センター	7	1	1	5	7
東北療護センター	2	1		1	2
岡山療護センター	1			1	1
中部療護センター	1			1	1

項目別には、プライバシーと感染対策等に関するご意見が寄せられた。主なご意見(抜粋)は以下の通り

<プライバシー>

○意識はしっかりあるが、自分で動けなかったり伝えられなかったりする患者さん、特に若い女性にはプライバシーがないのはキツイかなと思いました。ですが、私は他のベッドの患者さんともお話ができて良かったです。

○面会時、会話が周囲に聞こえてしまう。周囲の動きが気になる。

<感染対策>

○最初は驚いたが、目も行き届き安心できる。とてもいいと思う。感染症に関しては心配！隔離室も必要だと思う。

<その他>

○ワンフロア式の良さは充分に分かるが、患者の状態によっては個室化の必要性も出てくると思う。

○病状に応じてと思う。

○個室もあっていいのかと思う。

○看護師が「～できる」より、患者の満足が重要。バランスも大事だと思いますが。

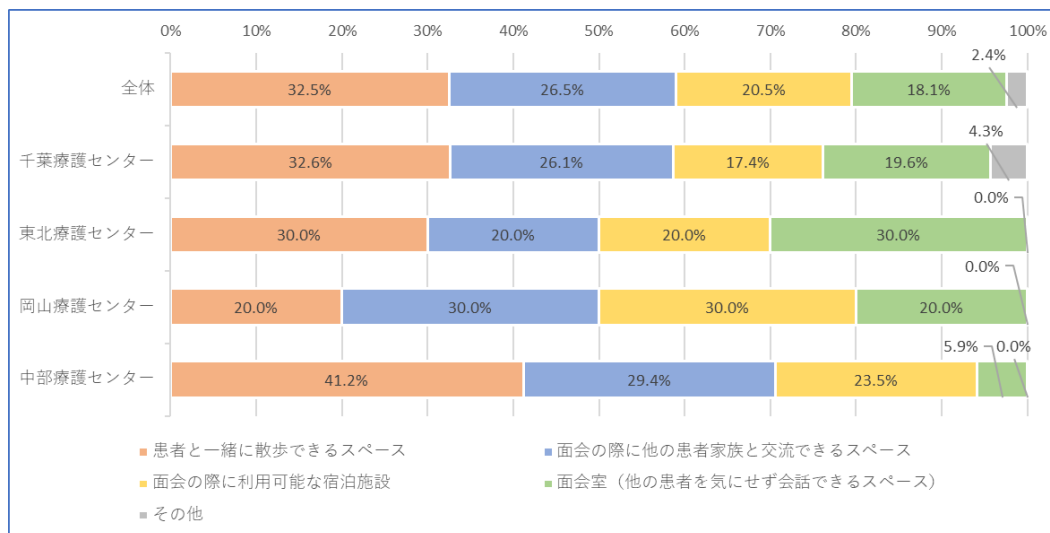
○個室になっていると、とても安心。ワンフロアなので安心。

Ⅱ. 集計結果

2. NASVA療護センターの利用状況について(Q2-9:必要な施設)

【設問】Q2-9:NASVA療護センターに必要な施設について、お聞かせください。

Q2-9	患者と一緒に散歩できるスペース		面会の際に他の患者家族と交流できるスペース		面会の際に利用可能な宿泊施設		面会室（他の患者を気にせず会話できるスペース）		その他		合計	
全体	27	32.5%	22	26.5%	17	20.5%	15	18.1%	2	2.4%	83	100.0%
千葉療護センター	15	32.6%	12	26.1%	8	17.4%	9	19.6%	2	4.3%	46	100.0%
東北療護センター	3	30.0%	2	20.0%	2	20.0%	3	30.0%			10	100.0%
岡山療護センター	2	20.0%	3	30.0%	3	30.0%	2	20.0%			10	100.0%
中部療護センター	7	41.2%	5	29.4%	4	23.5%	1	5.9%			17	100.0%



療護センターに必要な施設は、全体では、『患者と一緒に散歩できるスペース』が3割強、『面会の際に他の患者家族と交流できるスペース』が3割弱、『面会室（他の患者を気にせず会話できるスペース）』、『面会の際に利用可能な宿泊施設』が2割前後となっている。

『その他』は、売店(1件)、院内外泊の出来る施設(スペース)(1件)である。

Ⅱ. 集計結果

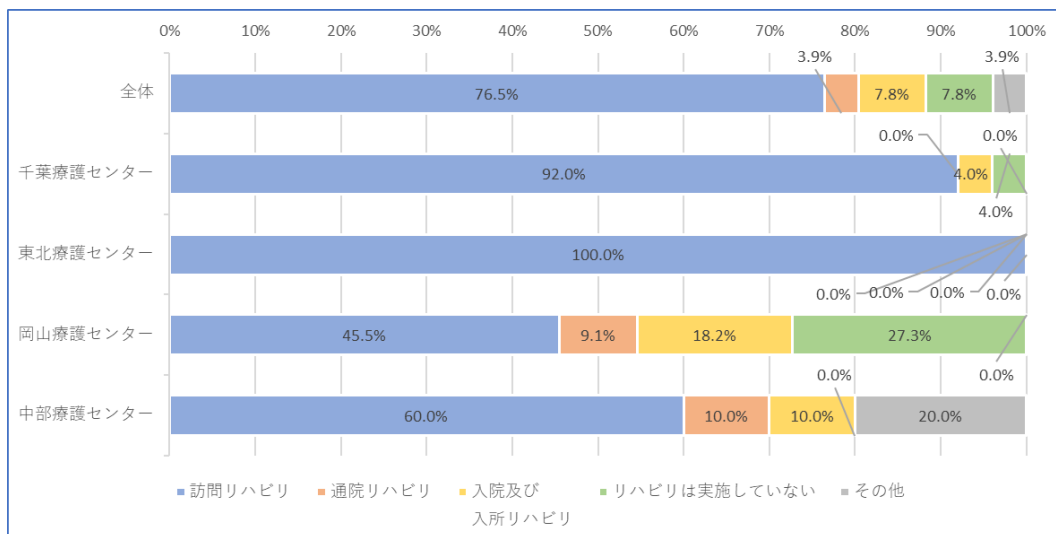
3. 現在実施しているリハビリについて(Q3-1:リハビリの形態)

【設問】Q3-1:現在実施しているリハビリの形態について、お聞かせください。

Q3-1	訪問リハビリ		入院及び 入所リハビリ		リハビリは実施して いない		通院リハビリ		その他		合計 (複数回答)	
全体	39	76.5%	4	7.8%	4	7.8%	2	3.9%	2	3.9%	51	100.0%
千葉療護センター	23	92.0%	1	4.0%	1	4.0%					25	100.0%
東北療護センター	5	100.0%									5	100.0%
岡山療護センター	5	45.5%	2	18.2%	3	27.3%	1	9.1%			11	100.0%
中部療護センター	6	60.0%	1	10.0%			1	10.0%	2	20.0%	10	100.0%

その他の回答

中部療護センター 記載なし (2件)



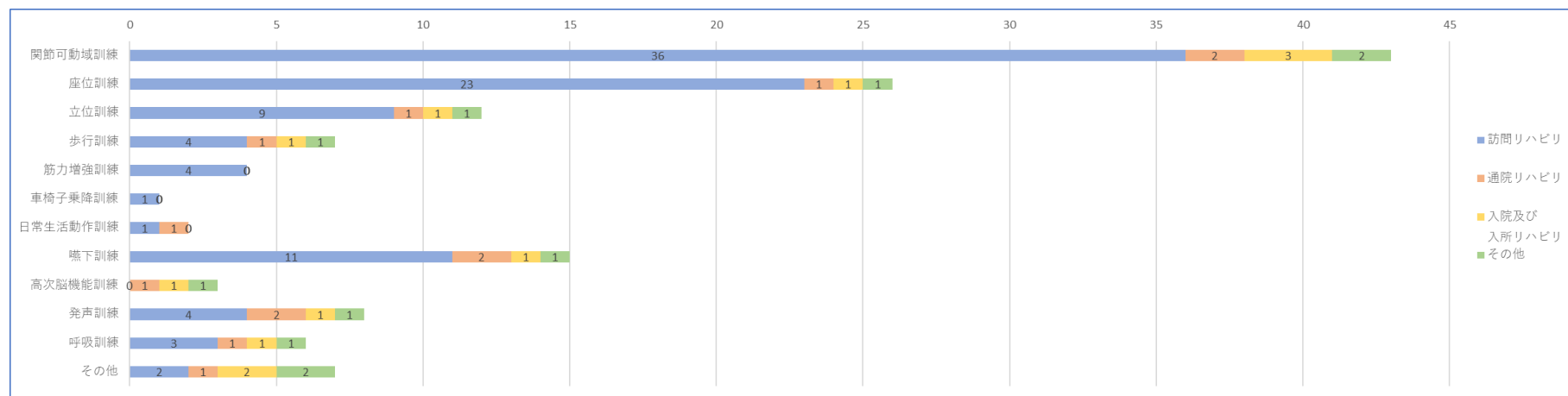
現在実施しているリハビリの形態は、『訪問リハビリ』が最も多く7割強である。『入院および入所リハビリ』が1割弱、『リハビリは実施していない』が1割弱となっている。

Ⅱ. 集計結果

3. 現在実施しているリハビリについて(Q3-2:実施中のリハビリのメニュー)

【設問】Q3-2:現在実施しているリハビリのメニューについて、お聞かせください。

Q3-2	関節可動域訓練	座位訓練	立位訓練	歩行訓練	筋力増強訓練	車椅子乗降訓練	日常生活動作訓練	嚥下訓練	高次脳機能訓練	発声訓練	呼吸訓練	その他	合計 (複数回答)
全体	43 32.1%	26 19.4%	12 9.0%	7 5.2%	4 3.0%	1 0.7%	2 1.5%	15 11.2%	3 2.2%	8 6.0%	6 4.5%	7 5.2%	134 100.0%
訪問リハビリ	36 36.7%	23 23.5%	9 9.2%	4 4.1%	4 4.1%	1 1.0%	1 1.0%	11 11.2%		4 4.1%	3 3.1%	2 2.0%	98 100.0%
通院リハビリ	2 15.4%	1 7.7%	1 7.7%	1 7.7%			1 7.7%	2 15.4%	1 7.7%	2 15.4%	1 7.7%	1 7.7%	13 100.0%
入院及び入所リハビリ	3 25.0%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%				1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	2 16.7%	12 100.0%
実施していない													
その他	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%				1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%	11 100.0%



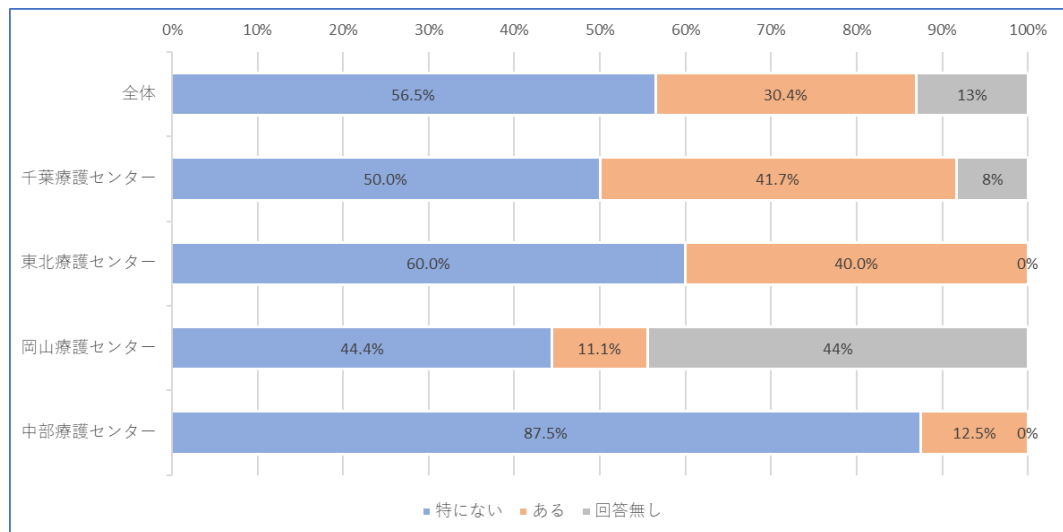
Q3-1で、7割強の回答者が訪問リハビリを実施していることから、実施中のリハビリメニューは、『関節可動域訓練』、『座位訓練』、『立位訓練』、『嚥下訓練』が多い。
 これらは、他の形態(通院リハビリ、入院および入所リハビリ)でも実施されている。
 『高次脳機能訓練』は、訪問リハビリでは実施されず、通院リハビリ、入院および入所リハビリでの実施である。

Ⅱ. 集計結果

3. 現在実施しているリハビリについて(Q3-3:現在のリハビリに望むもの)

【設問】Q3-3:現在のリハビリにおいて望むものについて、お聞かせください。

Q3-3	特にない		ある		回答無し		合計	
全体	26	56.5%	14	30.4%	6	13%	46	100.0%
千葉療護センター	12	50.0%	10	41.7%	2	8%	24	100.0%
東北療護センター	3	60.0%	2	40.0%			5	100.0%
岡山療護センター	4	44.4%	1	11.1%	4	44%	9	100.0%
中部療護センター	7	87.5%	1	12.5%			8	100.0%



『ある』と回答した方のご意見(14件)

1	千葉	週2回なので増やしてほしい。
2		リハビリ室のような所で訓練できない。
3		訓練器具
4		立位（傾斜角度）
5		日数と時間を増やせたらいいのと思っています。
6		もう少し介護者の話を聞いてリハビリをしてほしい。
7		立位訓練
8		脳・意識に刺激。声掛けや動作で。
9		いつも同じメニューなので、もう少し工夫がほしい点。
10		積極的リハビリ。治療として。
11	東北	時間や日数を増やしてほしい。
12		（記載無し）
13	岡山	もう少し声を出してほしい。
14	中部	ST、PTともに隔週。毎週来てほしい。

現在のリハビリに望むものは、全体では、『特にない』が5割強、『ある』が3割となっている。

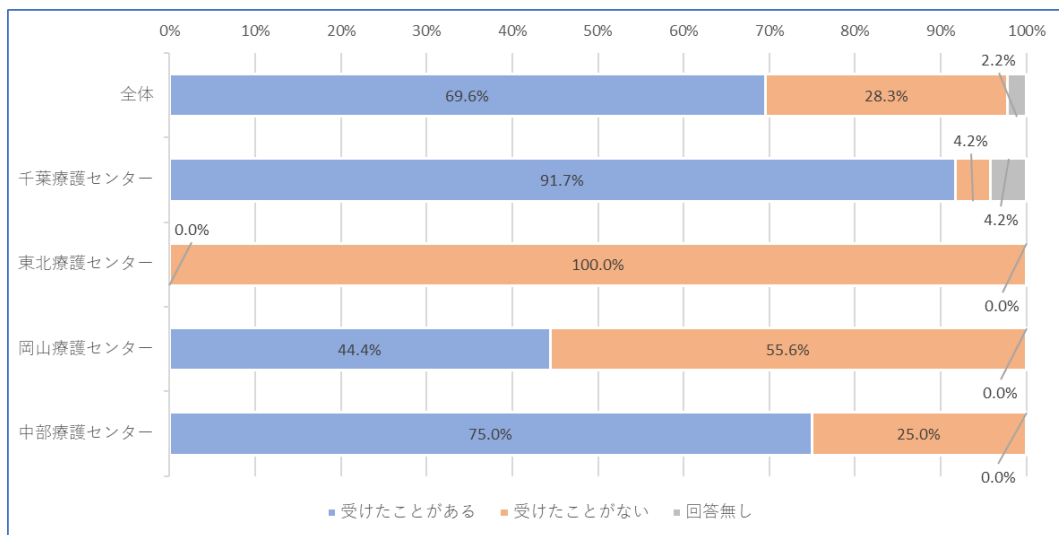
療護センター別にみると、千葉療護センター、東北療護センターでは『ある』の割合は4割以上となっている。また、『ある』と回答した方のご意見(14件)では、リハビリ回数増、時間増等が多い。

Ⅱ. 集計結果

4. 短期入院中のリハビリテーションについて(Q4-1:実施の有無)

【設問】Q4-1:NASVA療護センターまたはその他の病院において、短期入院中にリハビリを受けたことがありますか。

Q4-1	受けたことがある		受けたことがない		回答無し		合計	
全体	32	69.6%	13	28.3%	1	2.2%	46	100.0%
千葉療護センター	22	91.7%	1	4.2%	1	4.2%	24	100.0%
東北療護センター			5	100.0%			5	100.0%
岡山療護センター	4	44.4%	5	55.6%			9	100.0%
中部療護センター	6	75.0%	2	25.0%			8	100.0%



全体では『受けたことがある』は7割、
『受けたことがない』は3割弱である。

療護センター別にみると、
千葉療護センターは9割
岡山療護センターは4割強
中部療護センターは7割強
が『受けたことがある』と回答している。
東北療護センターは、『受けたことが無い』のみの
回答である。

注：必ずしも、療護センターに短期入院した時に実施したリハビリの回答ではなく、療護センター利用者が療護センター以外の短期入院先で行ったリハビリについても含んでいるものと考えられる。

Ⅱ. 集計結果

4. 短期入院中のリハビリテーションについて(Q4-2:受けたリハビリの内容)

【設問】Q4-2:Q4-1で「受けたことがある」と回答された方にお聞きます。短期入院中にどのようなリハビリを受けましたか。
(回答自由記載)

Q4-2	回答数	該当する内容（複数回答）						合計
		関節可動域 訓練	座位訓練	立位訓練	筋力増強訓 練	高次脳機能 訓練	その他	
全体	30	20	5	2	1	1	11	40
千葉療護センター	21	16	2				6	24
岡山療護センター	4	2	2	2	1	1	2	10
中部療護センター	5	2	1				3	6

※ 左表は、Q4-1で『ある』と回答した人の回答（自由記載）30件の内容を、該当する項目別に集計したもの。

Q4-1で、『受けたことがある』と回答した中で、具体的内容を記載した30件では、『関節可動域訓練』が最も多く、次いで『座位訓練』、『立位訓練』となっている。

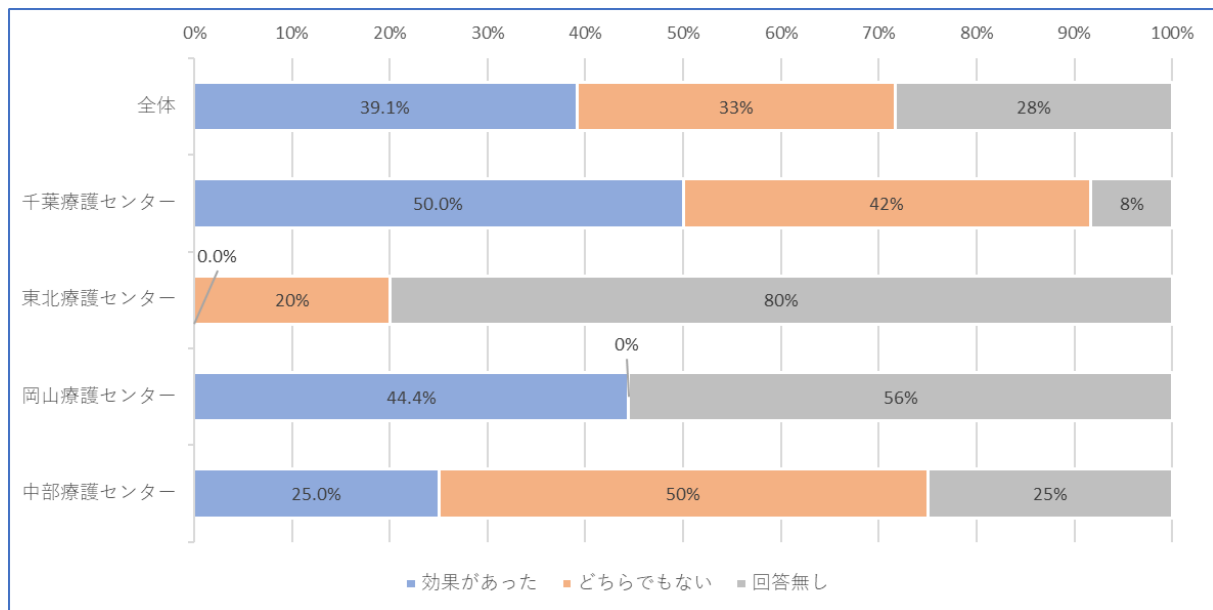
注：必ずしも、療護センターに短期入院した時に実施したリハビリの回答ではなく、療護センター利用者が療護センター以外の短期入院先で行ったリハビリについても含んでいるものと考えられる。

Ⅱ. 集計結果

4. 短期入院中のリハビリテーションについて(Q4-3:リハビリの効果)

【設問】Q4-3:Q4-1で「受けたことがある」と回答された方にお聞きます。短期入院中のリハビリで効果は得られましたか。

Q4-3	効果があった		どちらでもない		回答無し		合計	
全体	18	39.1%	15	33%	13	28%	46	100.0%
千葉療護センター	12	50.0%	10	42%	2	8%	24	100.0%
東北療護センター			1	20%	4	80%	5	100.0%
岡山療護センター	4	44.4%			5	56%	9	100.0%
中部療護センター	2	25.0%	4	50%	2	25%	8	100.0%



短期入院中に実施したリハビリの効果は、全体では、『効果があった』は4割弱、『効果が無かった』は無く、『どちらでもない』は3割強、『回答無し』は3割弱であった。

千葉療護センターは『効果があった』が5割、『どちらでもない』が4割、東北療護センターは『効果があった』が無く、『どちらでもない』が2割、岡山療護センターは『効果があった』が4割強、『どちらでもない』が5割強、中部療護センターは『効果があった』が2割強、『どちらでもない』が5割であった。

Ⅱ. 集計結果

4. 短期入院中のリハビリテーションについて(Q4-4:Q4-3の理由)

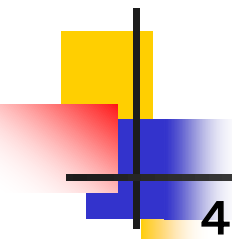
【設問】Q4-4:Q4-3の理由について、お聞かせください。(回答自由記載)

Q4-4	回答数	Q4-3回答					
		効果があった		どちらでもない		合計	
全体	26	15	57.7%	11	42.3%	26	100.0%
千葉療護センター	16	9	56.3%	7	43.8%	16	100.0%
東北療護センター	1			1	100.0%	1	100.0%
岡山療護センター	4	4	100.0%			4	100.0%
中部療護センター	5	2	40.0%	3	60.0%	5	100.0%

Q4-3の理由として記載があったものは、『効果があった』15件、『どちらでもない』11件であった。
『どちらでもない』の理由は、「短期入院が短期間であることからリハビリの効果を判断できない」が多くみられた。

<効果があった(15件)>

- 体幹がしっかりしてきた。
- 全廃なので、ず～と続く。動かさないと筋肉が固まる！全て。
- 帰宅後も関節が柔らかく維持されている感じがした。車いす乗車もしてもらっていてよかった。
- 短期入院中にリハビリを受けたときと受けていないときでは、帰宅時の関節拘縮が受けたときのほうが緩和されていました。
- 現状維持できた。体が硬くならず帰宅できた(全身)。音楽はとても刺激になるようで、歌唱に合わせて口をパクパク動かす動きは初めての発見だった。
- リハビリしていなかった時より、自宅に戻ってからの関節拘縮が緩和された。
- 関節拘縮が進行しなかったのも、今までよりも安心感がある。週2回した頂き良かった。
- 継続することで、関節拘縮や可動域の拘縮を防ぐことができると思うので。
- 関節拘縮。



Ⅱ．集計結果

4. 短期入院中のリハビリテーションについて(Q4-4:Q4-3の理由)

【設問】Q4－4:Q4－3の理由について、お聞かせください。(回答自由記載)(続)

<効果があった(15件)>(続)

- 拘縮の緩和。
- 筋力が付き、筋肉も柔らかくなった。関節も曲がるようになった。
- 短期入院緒間、リハビリが無いと寝たきりになるので、リハビリは効果があると思います。
- 音楽療法で表情が豊かになり、音が外れると大笑いした。
- ボトックス治療によって、関節可動域が改善された。
- 関節拘縮が緩和された(レスパイト中にボトックス注射をする)。

<どちらでもない11件>

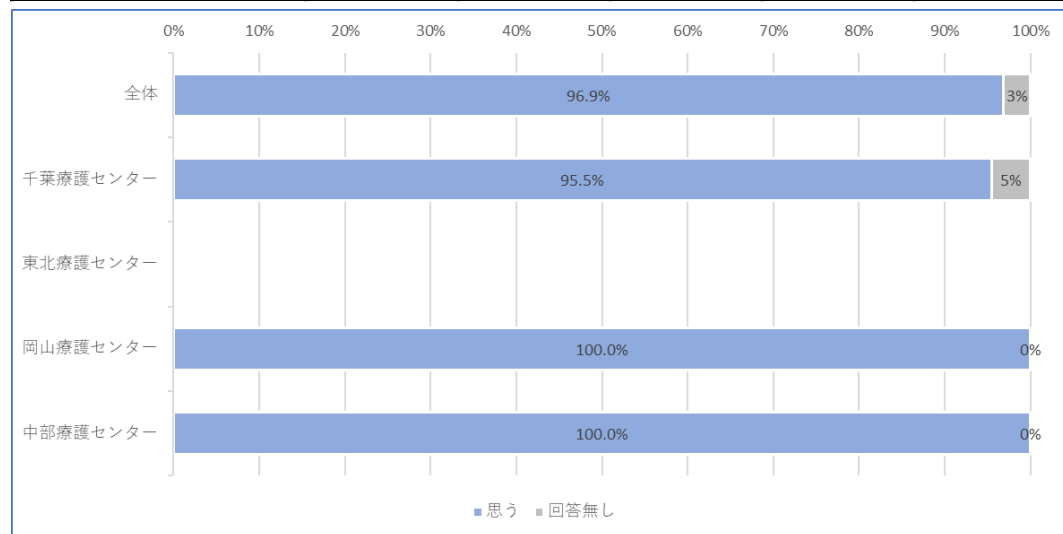
- 2週間の間に数回なので判断は厳しい。
- 原則、現状維持と聞いている。
- 日数が短いので。
- 週1回だけのため、判断できなかった。例えば10日間くらいの利用で1~2回程度のリハビリなのでよくわかりません。
- 短期間に数回程度では判断できない。
- 短時間で、見学もできないので、良く分からなかった。数回のみなので、判断できなかった。
- リハビリの動作方法を、家に帰ってもできるように、保護者にも教えてほしい。
- 判断不可能
- 短期入院中のリハビリの内容が分からなかった。
- 回数が少ないので判断できない。

Ⅱ. 集計結果

4. 短期入院中のリハビリテーションについて(Q4-5:再び受けたいか)

【設問】Q4－5:Q4－1で「受けたことがある」と回答された方にお聞きます。再び、短期入院中にリハビリを受けたいと思いますか。

Q4－5	思う		回答無し		合計	
全体	31	96.9%	1	3%	32	100.0%
千葉療護センター	21	95.5%	1	5%	22	100.0%
東北療護センター						
岡山療護センター	4	100.0%			4	100.0%
中部療護センター	6	100.0%			6	100.0%



再び短期入院中にリハビリを受けたいかは、千葉療護センターの1名(回答無し)を除き、全員が『思う』と回答をしている。『思わない』との回答は無かった。短期入院中のリハビリへの希望は強いと考えられる。

Ⅱ. 集計結果

4. 短期入院中のリハビリテーションについて(Q4-6:受けたいリハビリの内容)

【設問】Q4-6: 今後、短期入院中にどのようなリハビリを行って欲しいですか。(回答自由記載)

Q4-6	回答数	該当する内容 (複数回答)						
		関節可動域 訓練	座位訓練	立位訓練	筋力増強訓 練	日常生活動 作訓練	嚥下訓練	その他
全体	37	12	8	7	1	3	10	20
千葉療護センター	21	5	4	4	1	2	5	12
東北療護センター	5	1						5
岡山療護センター	6	2	2	2		1	3	1
中部療護センター	5	4	2	1			2	2

※ 左表は、Q4-1で『ある』と回答した人の回答(自由記載)37件の内容を、該当する項目別に集計したもの。

短期入院中に実施したいリハビリ(自由記載)については37件の回答があった。

項目別にまとめると、多いものから順に、『関節可動域訓練』12件、『嚥下訓練』10件、『座位訓練』8件、『立位訓練』7件となっている。『その他』20件のうち、主なご意見(抜粋)は以下の通りで、「在宅で活かせるリハビリ」とのご意見が多く寄せられた。

- 排泄についての意思表示訓練、人間的関わり(コミュニケーション)
- 現状維持できるようにストレッチ的なこと
- 在宅で活かせるリハビリ
- 筋トレ、嚥下訓練、声出し訓練、日常生活動作訓練etc、在宅介護で活かせるリハ
- リハビリ室へ行ってのリハビリを経験させてほしい。
- 在宅でも活かせるリハビリ、入院中に受けていた内容と同じようリハビリ
- 在宅でも行える、発声というか単語の練習のようなもの。口で吹く。笛などを利用して
- 嚥下訓練。以前在宅でも嚥下訓練を受けていたが、先生がいなくなってそのまま自宅で受けることができなくなっている(5年以上)。在宅で活かせるリハビリ。
- 何もやらないより、リハビリは重要視、寝たきりにはさせたくない。車いすに移すだけでもしてほしい。
- 嚥下訓練、関節可動域訓練、座位、立位訓練、トランポリン

Ⅱ. 集計結果

4. 短期入院中のリハビリテーションについて(Q4-7:リハビリ以外の希望)

【設問】Q4-7: 今後、短期入院中にリハビリ以外に行きたくすることはありますか。(回答自由記載)

Q4-7	回答数	該当する内容(複数回答)					
		脳検査	その他の検査	車いす調整	情報提供	相談等	合計
全体	30	15	6	12	7	5	49
千葉療護センター	21	9	3	11	6	4	37
東北療護センター	1				1		1
岡山療護センター	4	3	2				5
中部療護センター	4	3	1	1		1	6

※ 左表は、Q4-1で『ある』と回答した人の回答(自由記載)30件の内容を、該当する項目別に集計したもの。

短期入院中に以外に行きたくすることについては、30件の回答があった。

項目別にまとめると、多いものから順に、『脳検査』15件、『車いす調整』12件、『情報提供』7件、『その他の検査』6件、『相談等』5件となっている。

『その他』4件のうち具体的なお意見は下記の3件で、散歩等についてのご希望であった。

<その他(4件中3件が記載)>

○車椅子での散歩。在宅では家から出るの難しい為。

○音楽、テレビ、外の散歩お話ししながら。

○センターの近くに海岸があるので、たまには海まで散歩等に連れて行ってほしい。忙しいでしょうが。

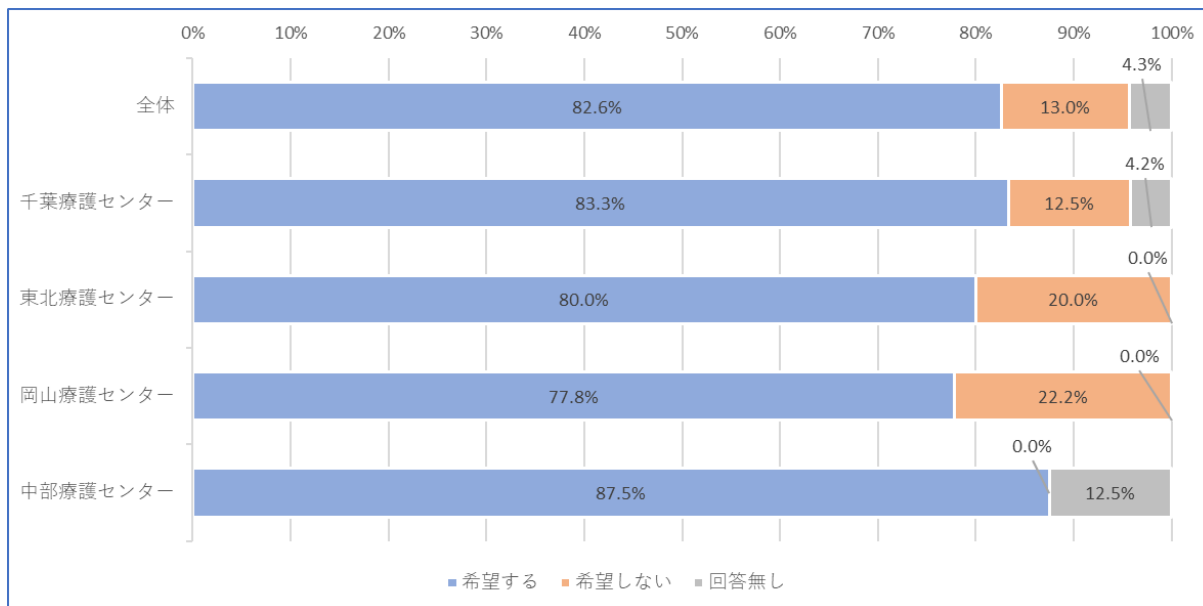
Ⅱ. 集計結果

5. 退院後に再び利用する際の要望(Q5-1:再入院の希望の有無)

【設問】5—1:NASVA療護センター退院後に再度、療護センターで一時的に入院し、リハビリが受けられるとすれば、入院を希望するかお聞かせください。

Q5-1	希望する		希望しない		回答無し		合計	
全体	38	82.6%	6	13.0%	2	4.3%	46	100.0%
千葉療護センター	20	83.3%	3	12.5%	1	4.2%	24	100.0%
東北療護センター	4	80.0%	1	20.0%			5	100.0%
岡山療護センター	7	77.8%	2	22.2%			9	100.0%
中部療護センター	7	87.5%			1	12.5%	8	100.0%

再入院の希望の有無については、全体では『希望する』は8割強、『希望しない』は1割強となっている。



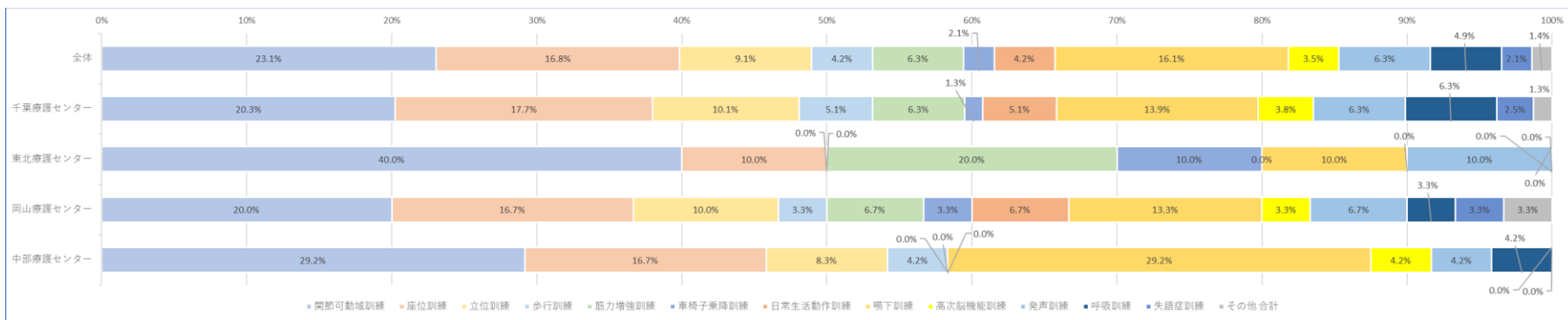
『希望しない』との療護センター別回答は、千葉療護センターでは1割強、東北療護センターでは2割、岡山療護センターでは2割、中部療護センターでは無かった。

Ⅱ. 集計結果

5. 退院後に再び利用する際の要望(Q5-2:再入院時に希望するリハビリ)

【設問】Q5—2:入院した際に希望するリハビリについて、お聞かせください。

Q5—2	関節可動域訓練		座位訓練		立位訓練		歩行訓練		筋力増強訓練		車椅子乗降訓練		日常生活動作訓練		嚥下訓練		高次脳機能訓練		発声訓練		呼吸訓練		失語症訓練		その他		合計 (複数回答)	
全体	33	23.1%	24	16.8%	13	9.1%	6	4.2%	9	6.3%	3	2.1%	6	4.2%	23	16.1%	5	3.5%	9	6.3%	7	4.9%	3	2.1%	2	1.4%	143	100.0%
千葉療護センター	16	20.3%	14	17.7%	8	10.1%	4	5.1%	5	6.3%	1	1.3%	4	5.1%	11	13.9%	3	3.8%	5	6.3%	5	6.3%	2	2.5%	1	1.3%	79	100.0%
東北療護センター	4	40.0%	1	10.0%					2	20.0%	1	10.0%			1	10.0%			1	10.0%							10	100.0%
岡山療護センター	6	20.0%	5	16.7%	3	10.0%	1	3.3%	2	6.7%	1	3.3%	2	6.7%	4	13.3%	1	3.3%	2	6.7%	1	3.3%	1	3.3%	1	3.3%	30	100.0%
中部療護センター	7	29.2%	4	16.7%	2	8.3%	1	4.2%							7	29.2%	1	4.2%	1	4.2%	1	4.2%					24	100.0%



再入院の際に希望するリハビリについては、143件の回答があった(複数回答)。
希望するリハビリは多いものから順に、
『関節可動域訓練』33件、『座位訓練』24件、『嚥下訓練』23件、『立位訓練』13件となっている。

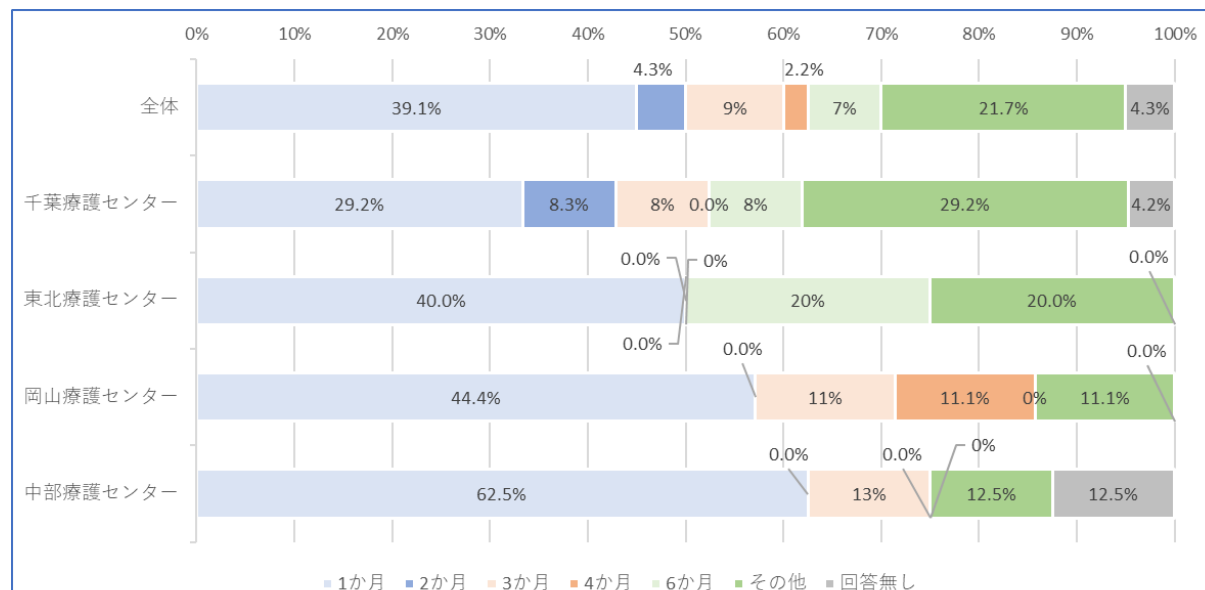
療護センター別では、
『関節可動域訓練』は、東北療護センターで4割、中部療護センターで3割と他療護センターに比べて多くなっている。
『嚥下訓練』は、中部療護センターで3割と他療護センターに比べて多くなっている。

Ⅱ. 集計結果

5. 退院後に再び利用する際の要望(Q5-3:再入院時に希望する入院期間)

【設問】Q5—3:希望する入院期間について、お聞かせください。

Q5—3	1か月		2か月		3か月		4か月		6か月		その他		回答無し		合計	
全体	18	39.1%	2	4.3%	4	9%	1	2.2%	3	7%	10	21.7%	8	17%	46	100.0%
千葉療護センター	7	29.2%	2	8.3%	2	8%			2	8%	7	29.2%	4	17%	24	100.0%
東北療護センター	2	40.0%							1	20%	1	20.0%	1	20%	5	100.0%
岡山療護センター	4	44.4%			1	11%	1	11.1%			1	11.1%	2	22%	9	100.0%
中部療護センター	5	62.5%			1	13%					1	12.5%	1	13%	8	100.0%



その他の回答内容(10件)

千葉療護センター	1年に何回か継続的に。
	できるだけいっぱいしたい。
	今のままでよい。
	リハビリの内容を相談して決めたい。
	1か月、3か月、6か月
東北療護センター	2週間以内の短期入院利用時。
	1～2か月
岡山療護センター	3週間
中部療護センター	3～4か月
中部療護センター	2週間

再入院時に希望する入院期間は、全体では多いものから順に、『1か月』18件、『3か月』4件、『6か月』3件、『2か月』2件であった。

『1か月』と回答した割合は、療護センター別では

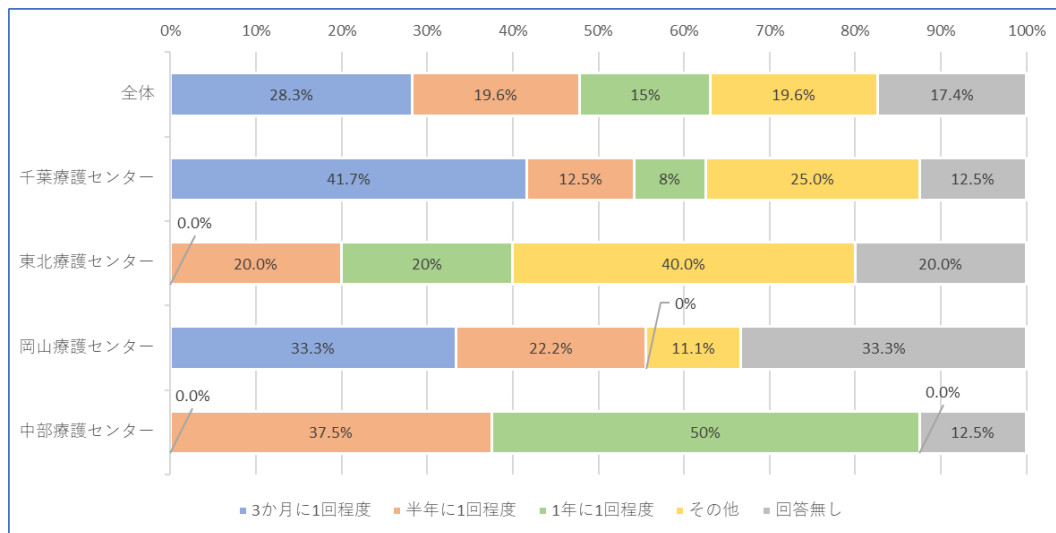
千葉療護センター、東北療護センター、岡山療護センターでは3割から4割だが、中部療護センターでは6割となっている。

Ⅱ. 集計結果

5. 退院後に再び利用する際の要望(Q5-4:在宅復帰後のリハビリ頻度)

【設問】Q5—4:在宅復帰後のリハビリをどの位の頻度で受けたいか、お聞かせください。

Q5—4	3か月に1回程度		半年に1回程度		1年に1回程度		その他		回答無し		合計	
全体	13	28.3%	9	19.6%	7	15%	9	19.6%	8	17.4%	46	100.0%
千葉療護センター	10	41.7%	3	12.5%	2	8%	6	25.0%	3	12.5%	24	100.0%
東北療護センター			1	20.0%	1	20%	2	40.0%	1	20.0%	5	100.0%
岡山療護センター	3	33.3%	2	22.2%			1	11.1%	3	33.3%	9	100.0%
中部療護センター			3	37.5%	4	50%			1	12.5%	8	100.0%



その他の回答内容(9件)

千葉療護センター	毎日
	週3日
	自宅では週1で受けている。 リハビリの内容を相談して決めたい。
	適時に(不定期に)。 短期入院利用時に受けたい。
東北療護センター	週2回 (記載無し)
岡山療護センター	週2回

在宅復帰後のリハビリ頻度は、全体では多い順に、
『3か月に1回程度』13件、『半年に1回程度』9件、『1年に1回程度』7件であった。

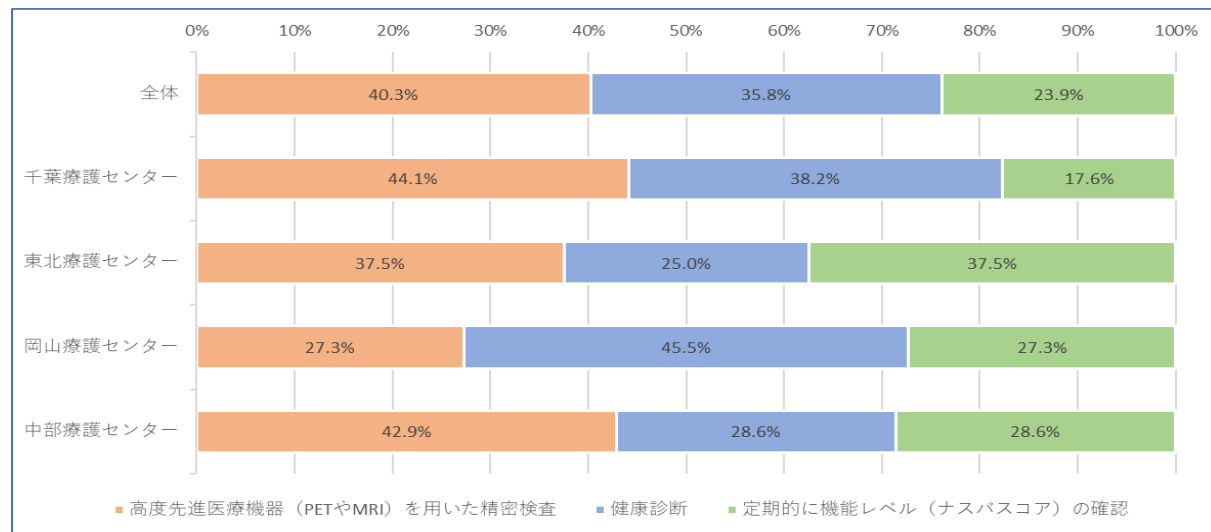
Ⅱ. 集計結果

5. 退院後に再び利用する際の要望 (Q5-5:在宅復帰後に希望する診断・検査等)

【設問】Q5－5:在宅復帰後に体の状態を把握する機会があったとしたら、どのようなことを望まれますか。

Q5－5	高度先進医療機器 (PETやMRI) を用 いた精密検査		健康診断		定期的に機能レベル (ナスバスコア) の 確認		合計 (複数回答)	
全体	27	40.3%	24	35.8%	16	23.9%	67	100.0%
千葉療護センター	15	44.1%	13	38.2%	6	17.6%	34	100.0%
東北療護センター	3	37.5%	2	25.0%	3	37.5%	8	100.0%
岡山療護センター	3	27.3%	5	45.5%	3	27.3%	11	100.0%
中部療護センター	6	42.9%	4	28.6%	4	28.6%	14	100.0%

在宅復帰後に希望する診断・検査等については、全体では多い順に、『高度先進医療機器(PETやMRI)を用いた精密検査』27件、『健康診断』24件、『定期的に機能レベル(ナスバスコア)の確認度』16件となっている。



Ⅱ. 集計結果

6. その他のご希望

【設問】Q6:その他ご希望がございましたらご記入ください。

Q 6	回答数	該当する内容（複数回答）					合計
		施設 (増設等)	短期入院 期間	短期入院 回数	リハビリ	その他	
全体	20	4	3	2	2	10	21
千葉療護センター	10	1	3		1	5	10
東北療護センター	3			1	1	2	4
岡山療護センター	3	2				1	3
中部療護センター	4	1		1		2	4

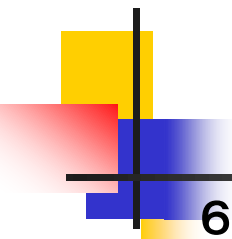
その他のご希望については、『施設(増設等)』4件、『入院期間』3件、『家族サポート』2件、『職員体制』2件等となっている。
主なご意見(抜粋)は以下の通り

<施設(増設等)>

○療護センターのような施設がもっと全国に増えるといいのに・・・と思っています。本当にあの3年間は主人だけでなく私たち家族にとってもありがたい時間でした。

○自宅により近い所へ療護センターができてほしい。現在、片道4時間かかります。タクシーで行くので、片道12万円かかってしまいます。地元で安心して預けられるところがコロナでもありますが、少し抵抗感があります。

○全国的に親亡き後に預ける施設が少なく、特に気管切開などをしている重度の障害、寝たきり者を看る施設は圧倒的に少ない。「障害のある子は親が面倒をみるもの」という考えが世の中や行政にもある。この社会通念は介護をする親が老いない、病まない、衰えないと思い込んでいるようである。我々はすでに老障介護に突入している。親が子に望むケアは、生命と肉体のケア、医療の充実と生活のケア、親と子それぞれの生と死をめぐる実存的な苦しみへのケアである。必要条件を備えた安心材料が少なく、親としては「残して逝ける」に至らない。社会保障費の財源には限りがあるが、常時、支援できる障害者支援の専門家たちによる支援、短期入所の機能、終身で入所できる施設へのバックアップ機能、常時見守りが必要な寝たきり者の障害が見通せる入所施設の設立を希望する。わが子の重度重症化をめぐり、またわが身の老いをめぐって、「これなら残して逝けるかも」と希望を持ちたい。



Ⅱ．集計結果

6. その他のご希望(続)

<短期入院期間>

- 短期入院の期間を、45日を50日に等、もう少し増やしていただけたら。すみません、図々しいお願いです。
- 短期の日数を増やしてほしい。
- 現在の短期入院期間を少しでも長くしてもらいたいです。

<短期入院回数>

- 短期入所の回数を1回あたり14日、年3回の回数を増やしてほしい。介護する親も歳(68歳)になりました。
- 年1回ではなく、半年に1回は短期入院を利用したいです。

<リハビリ>

- 在宅介護では充実できないリハビリ(PT,OT,ST)をお願いしたいです。
- リハビリ入院をぜひしてほしい。ゼオマインをしても、リハビリを受けられないのはもったいない。

<グループホーム等>

- 私も年を取り介護にも限界があります。だんだん体が動かなくなり疲れているところに鞭打って、やっと看着いる状態です。早くグループホーム等を作ってほしいです。時間がありません。お願いします。

<コロナ禍等>

- 早く短期入所が再開すること。
- できるだけ早く実施してほしい。

<その他>

- 3年ほどお世話になっていた病院であることと、スタッフの方に相談させてもらえる安心感があるので、これからも利用させてもらいたい。
- 毎回書く書類を簡素化してほしい。もしくは、前回と違うとき記入とか、工夫してほしい。印鑑なくしてほしい。
- 家では、午前11時頃～午後5時頃まで車いすに乗って過ごすようにしています。入院中は一斉に、午後だけとか制限があるようです。個人に合った日々のプログラムで過ごせるようにしてほしい。拘束はやめてほしい。